

地域 I Cカードプロジェクト会議 先進地事例に関する意見交換結果

意見（要旨）

○事前研究の結果

- ・地域 I Cカードとなると色々な取り組みの可能性はあるようだが、そろそろ何かに絞り込んで大津で実現可能なものを検討していつてはどうか。大学連携や市街地の商店との連携などが候補となりそうだ。
- ・高松や松山の状況を聞いたところによると、商店への導入は上手くいっていないようだ。やはり商店街などへの導入は難しいのだろうか。
- ・大学連携となると中心市街地エリアと整合しなくなることが課題だ。エリア内には大学は無いし、学生であれば瀬田エリアも買い物や食事をよくしているだろう。補助金を活用するのであれば難しいのではないかな。
- ・エリア内にある図書館との連携はどうか。図書館とタクシーやバスで同じカードが使えるということは利用者にとってメリットがある。
- ・京阪バスは来年から P I T A P A を導入する予定である。
- ・P I T A P A などを公共の駐車場で使えるようにして、京阪や路線バスとの連携ができないか。
- ・公共駐車場であればまちづくり交付金の活用を検討できる。
- ・公共駐車場で I Cカードが使える機器を導入するのであれば、I Cカード導入のメリット、導入したことでの、地域への波及効果や獲得目標をはっきりさせることが必要だろう。例えば、京阪電車の利用者数が増えるなどの目標がもてればよいが、なかなか難しいところだ。
- ・経済産業省の戦略補助金を活用する場合には、自己負担分を誰が負担するのが問題になる。まちづくり大津が事業主体となった場合には、しっかりと資金回収できる目途が無いと難しい。
- ・商店街にはすみれカードを最近導入した経過や新しいことに商店街として取り組むこと、自己負担への抵抗などを考えるとかなり難しいだろう。
- ・やる気のある商店主を公募するような方法で取り組まないと商店街単位での導入は不可能だと思う。

○視察について

- ・視察を行うためにも、方向性を決めて、その課題や質問事項などをまとめることで、視察の成果をしっかりと意識したい。
- ・視察では、どのような補助金を活用したのか、民間の駐車場へはどのように導入したのか、香川大学はどうやって導入したのかなど質問事項をまとめてきたい。
- ・視察については、11月の中旬から下旬の実施を予定として事務局で調整する。

○プロジェクトの今後の方向性について

- ・地域 I Cカードプロジェクトとしては、現在の P I T A P A や I C O C C A を利用して、中心市街地内で利用できる場所を増やしていくことで、来街者の利便性を高め、多くの人が来なくなるエリアにしていければと思う。来年度の京阪バス導入とあわせ、公共駐車場や駐輪場、商店や商業施設への導入可能性を検討していく。
- ・社会実験として、P I T A P A などを利用できる場所をまちなかに一気に増やしてみてもどうか。来街者の利便性を図り、その使い勝手などを検証することもできるだろう。
- ・秋には視察を考えているが、プロジェクトとしては今年度中に方向性を出していく必要がある。